

CITIZEN®

取扱説明書

デジタル温度・湿度計(クロック付)

～ 製品の特長 ～

- カレンダーと温度、湿度表示
- 温度と湿度の状態により注意報を表示

お買い上げいただきありがとうございます。
お使いになる前にこの取扱説明書をよくお
読みのうえ、正しくお使いください。
取扱説明書は、お読みになった後もお手元
に保管して、必要に応じてご覧ください。

発売元 **リズム時計工業株式会社**

〒330-9551 埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目299番12
http://www.rhythm.co.jp

(Y1205)

CITIZENはシチズンホールディングス株式会社の登録商標です。

保証書 GUARANTEE	
製品番号(製品名)	8RD205
※お買い上げ日	年 月 日
保証期間	お買い上げ日より 1年
お客様	名前 ----- 住所
TEL.	- -
※販売店印(住所、店舗名、電話番号)	

- 本保証書は再発行しませんので大切に保管してください。
- 本保証書の発行によりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- 本保証書は日本国内のみ有効です。This guarantee is valid only in Japan.
※印の項目は、販売店記入

保証について

取扱説明書にそった正常なご使用状態で、万が一保証期間内に故障がおきた場合、本保証書を添えてお買い上げの販売店にご持参くだされば、修理可能な場合は、無料修理致します。ただし、商品の状態によっては、現品交換または、同等品のものとの交換させていただきます。尚、本保証書の発行によりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。この保証書は、お買い上げ店で発行いたします。必ず※印欄の記入・捺印をお確かめのうえ大切に保存してください。

■販売店の方へ

この保証書は、お客様へのアフターサービスの実施と責任を明確にするためのものです。ただし、貴店で別に保証書を発行する場合は、この限りではありません。

■次のような場合には、保証期間中でも有料修理になりますので、ご注意ください。

- 1.保証書のご提示がない場合。
- 2.保証書の※欄に記入・捺印のない場合、字句を書きかえられた場合。
- 3.お買い上げ店以外のお店にご依頼の場合。
- 4.お客様のお手元に渡ってからのお取り扱いや輸送での落下など異常な衝撃による故障、または損傷。
- 5.天災・火災または異常な塩分・酸・蒸気・熱・有毒ガスなどの影響による故障、または損傷。
- 6.お客様による修理・改造などが原因で故障した場合。
- 7.本体の水没や飲料水などにより濡れたことによる故障。
- 8.ご使用中に生じる外観上の変化(ケース、ガラスなどの小キズ)
- 9.電池の交換

※送料・出張料は実費をいただきます。

アフターサービスについて

この製品のアフターサービスは、お買い上げ販売店がいたします。次の記載事項と保証書をよくお読みの上、ご利用ください。

●修理部品の保有について

修理用性能部品(電子回路)は製造打ち切り後、5年間を基準に保有しています。商品の状態によっては、現品交換で対応させていただきますことがあります。

●修理可能期間について

無料保証期間が過ぎても、性能部品保有期間中は、原則として有料修理または新品との有料交換が可能です。ただし、修理には販売店と修理工場の往復運賃・諸掛り費用も加わり、商品により修理代金が高額になる場合がありますので、販売店とよくご相談ください。

●転居または贈答品の場合

買い上げ販売店でのアフターサービスが受けられない場合は、お客様相談室にご相談ください。
保証期間中の場合は、販売店の保証書が必要です。

Service and technical support for this product are available only within Japan.

お問い合わせ先

(フリーダイヤル)

お客様相談室 0120-557-005

受付時間 9:00～17:00(土日、祝日および当社休日を除く)

お問い合わせの際は、製品番号「8RD205」をお伝えください。

安全にお使いいただくためにはじめにお読みください

ここに示した注意事項は、あなたや他人への危害や損害を未然に防ぐためのものです。必ず守ってください。



警告

死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容



誤飲を防止するため、小さな部品や電池は、幼児の手の届く所に置かない

万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師の治療を受けてください。



電池からの液漏れや発熱、破裂を防止するために、次のことを守る

- 電池をショートさせない。
- 電池を充電しない。
- 電池に傷をつけたり、分解したりしない。
- 電池を加熱したり、火の中に入れてたりしない。



電池から液漏れが起きてしまったときは、素手でさわらない

- 電池から漏れた液が目や皮膚についたら、すぐに水道水でよく洗い流して医師の治療をうけてください。衣服に付着した場合は、すぐに水道水で洗い流してください。アルカリ乾電池の場合、失明や炎症などの障害が発生する危険性が高くなります。
- ゴム手袋をして電池を取り出して、漏れた液を布や紙でよくふき取ってください。修理が必要なときは、お買い上げの販売店または当社お客様相談室にご相談ください。

お手入れについて

- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤や石けん水を、柔らかい布に少量つけてふき取り、その後、からぶきしてください。
- ケースなどのよごれ落としに、ベンジン、シンナー、アルコール、スプレー式クリーナー類は、使用しないでください。



注意

傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される内容



浴室やサウナ、温室など、高温・高湿になるところでは使わない
さびの発生や故障の原因になります。



分解したり改造しない

分解禁止

故障の原因になります。



落としたり、たいたいたりして衝撃を与えない

禁止

故障や破損の原因になります。



下記のような場所では使わない。

禁止

品質や精度の低下、部材の変形、劣化、故障の原因になります。

- 直射日光が当たる所。
- 温度が+50℃以上の所。
- 温度が-10℃以下の所。
- ほこりが多く発生する所。
- 強い磁気が発生する所。
- 車中や船舶、工事現場など振動の激しい所。
- プールや温泉場などガスの発生する所。
- 調理場など、多くの油を使用する所。
- ゴムや軟質のポリ塩化ビニルに長い間、直接接触させると、色移りや付着、変質をすることがあります。

電池・製品の廃棄

- お住まい地区自治体の指定に従ってください。
- 電池と本体を分別して廃棄してください。

この取扱説明書を許可なく複製、変更することを禁じます。本製品を使用することによって生じたいかなる支出、損益、その他の損失に対してなんら責任を負いかねますのでご了承ください。

電池のご注意 (電池の正しい使いかた)

電池のご使用上のポイント 正しく使って事故をなくしましょう

- プラス(+)、マイナス(-)を間違えない。
- 種類異なる電池を混ぜない。
- 長期間使用しないときは電池を取り外す。
- 電池を新しくするときは、全部取り替える。
- 古い電池と新しい電池を混ぜない。
- 動いていても定期的に交換する。
- 止まったらすぐに電池を取り外す。
- 幼児の手が届かない所に置く。

電池の寿命について

- 付属の電池は、工場を出荷するときに入れていますので、製品仕様より短い期間で電池切れになることがあります。

交換用電池の入手について

- 家電量販店やコンビニエンスストアなどで「CR2032」を指定してお買い求めください。

用途について

- この製品は医療や業務用として開発したものではありません。
- 注意報は、測定条件によって大きく変化します。あくまでも目安としてお使いください。
- 温度や湿度の証明など商取引に使用することはできません。

静電気の影響について

静電気の影響により、正常に機能しなくなることがあります。このようなときはリセットボタンを押してください。

おもな製品仕様

使用温度範囲 -10～+50℃
使用湿度範囲 結露しないこと
電池 CR2032 2個
電池寿命 約1年(常温中)
温度測定範囲 -9.9～50℃
測定精度 ±1℃
湿度測定範囲 20～95%RH 温度が5～50℃のとき
測定精度 ±3%RH 25℃、60%RHにおいて
温湿度測定間隔 1分に1回

- 液晶表示は5年を超えると表示が薄くなる場合があります。
- 液晶は 0℃以下の低温では表示が薄くなったり、反応が遅くなる場合があります。また、40℃より高温では表示が濃くなったり、ムラに見えることがあります。
- 温度・湿度センサーは経年変化により精度が低下することがあります。
- 製品仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

付属品

電池 2個 ストラップ 1個 取扱説明書・保証書 本書

時計機能 クォーツ
時刻表示 12時間表示
時間精度 平均月差±30秒(常温中)
カレンダー 2010～2099年まで対応
防塵防滴機能 なし

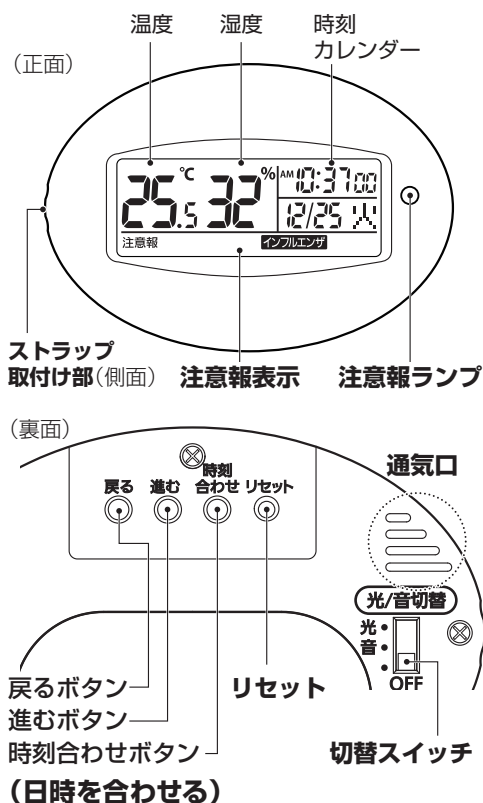
*%RHは相対湿度の単位



注意

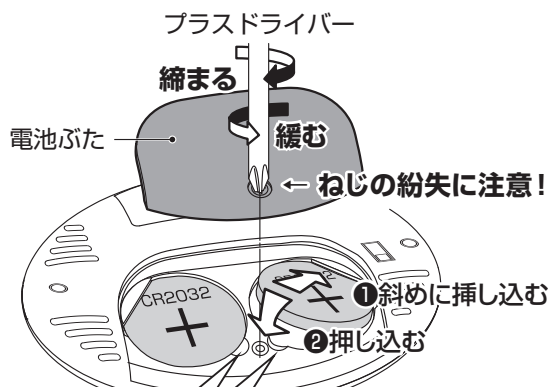
防塵・防滴仕様ではありません。水滴やほこりが本体内部に入ると故障や誤作動の原因になります。

●図は操作説明用ですので、実際の商品と異なることがあります。



リセットボタンを押すと、日時は2010/1/1午前12:00に設定されます。

〈電池の入れかた〉



電池が取り出しにくいときは、ここに爪楊枝などの細い棒状のものを挿し込んで取り出してください。

- 小さいプラスドライバーをご用意ください。
 - ①プラス(+)ドライバーでねじを緩めて電池ぶたを取り外す。
 - ②電池の+マークを上にして2個入れる。
 - ③電池ぶたを取り付けてねじを締める。
- ※金属製のピンセットはショートするおそれがありますので使用しないでください。
※誤飲を防ぐために、小さなお子様のそばで電池を交換しないでください。

使い始めるときまたは電池を交換するとき

1.電池ホルダーに電池を入れる 〈電池の入れかた〉参照

電池の⊕⊖を逆向きに入れると電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

2.爪楊枝(つまようじ)など細い棒状のものでリセットを押す

誤作動を防ぐために、電池を入れた直後に、必ずリセットを押してください。温度と湿度は6秒程度遅れて表示されます。

3.日付と時刻を合わせる

(操作例)

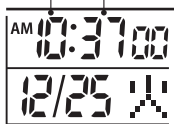


①② 西暦年



③月 ④日

⑤時 ⑥分



- 数値は、進むまたは戻るボタンを押して合わせます。
押してすぐ離す：ひとつ単位 押し続ける：早送りまたは早戻し
- ①時刻合わせボタンを西暦年が点滅するまで約3秒間押し続ける。
 - ②西暦年を進む/戻るボタンを押して合わせ、時刻合わせボタンを押す。
 - ③月を進む/戻るボタンを押して合わせ、時刻合わせボタンを押す。
 - ④日を進む/戻るボタンを押して合わせ、時刻合わせボタンを押す。
 - ⑤時を進む/戻るボタンを押して合わせ、時刻合わせボタンを押す。
 - ⑥分を進む/戻るボタンを押して合わせ、時刻合わせボタンを押す。
- ⑤と⑥のときに進む/戻るボタンを押すたびに00秒になります。

以上で設定は終わりです。

※設定中に約30秒間ボタン操作をしないと設定を終わります。

電池の交換について



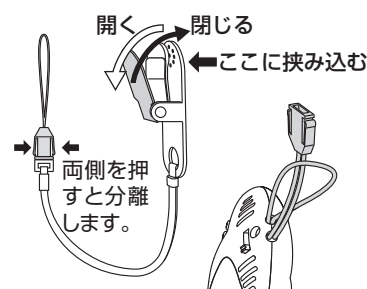
注意

電池からの液漏れや発熱、破裂を防ぐために、次のことをお守りください。

- 液晶表示が薄くなったときには、速やかに指定の電池に交換するか、電池を取り出す。
- 古い電池と新しい電池、種類の異なる電池を混ぜて使用しない。
- 電池の⊕⊖を逆に入れない。

携帯するときの注意

付属ストラップの使いかた



側面のあなに取り付ける

- 温度・湿度を読み取るときは日陰で行ってください。
- 日光で本体が熱せられると正しく測定できません。
- 本体を人体の近くまたは触れさせると、温度・湿度が人体の影響を受けやすくなります。
- ポケットやバッグに入れると、温度・湿度を正しく反映しなくなります。バックなどから取り出したときには、時間を置いて温度・湿度を確認してください。
- 落とすと衝撃により、故障や破損、誤作動の原因になります。ストラップでしっかり固定してください。

温度・湿度表示

センサーが本体内部にあるため、表示に反映するまでには時間がかかります。温度と湿度は1分間隔で測定します。

- ※測定前に本体通気口の風通しをよくして、測定場所の環境になじませてください。
- ※測定するときに手で包み込んだり、息を吹きかけたりすると測定に影響を与えます。

測定ができないときの表示

温度 「HH.H」 50℃より高温 「LL.L」 -9.9℃より低温
湿度 「HH」 95%を超えている 「LL」 20%未満 *相対湿度表示
「--」 測定不能 (温度が5~50℃の範囲外)

■ 注意報の表示

温度と湿度が注意すべき状態になると、該当する注意報が点灯します。

熱中症

食中毒

インフルエンザ

カビ・ダニ

4項目が注意報の対象です。

■ 音または光による注意報について



○明るさ、音量は調節できません。

1つでも注意報の状態になると、音または光でお知らせします。切替スイッチで選択してください。

光：1分間隔で注意報ランプが連続3回点滅。

音：1分間隔で“ピ ピ ピ”と鳴る。

OFF：光または音ではお知らせしません。

※注意報は発生の有無を断定するものではありませんので、空調や体調管理などの目安としてお使いください。

※公的機関から発表される「注意」や「警報」とは一致しないことがあります。

ひとくちメモ

相対湿度

空気のなかにどれだけ水蒸気(水が気体になったもの)があるかを示すものです。単位体積当たりの空気に取り込める水蒸気の最大量は温度によって変わり、これを飽和水蒸気量といいます。この飽和水蒸気量と実際に空気に含まれている水蒸気量の比を百分率で表したものが相対湿度です。単位は「%RH」ですが、天気予報など一般的には「%」で表示されています。

熱中症

高温環境下で、体内の水分や塩分などのバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして、発症する障害の総称です。気温、気流(風)、湿度、輻射熱の状態によっては、屋内外を問わず発生しやすくなります。こまめな水分補給、室温の調節、風通しをよくするなど体温の上昇を防ぐ必要があります。

食中毒

梅雨など高温多湿となると菌が増殖しやすくなります。細菌による食中毒を予防する三大原則といわれているのは、

1. 菌を付けない(清潔にする)
2. 菌を増やさない(迅速に冷却、乾燥する)
3. 菌を加熱などで殺す

対策が必要になります。

インフルエンザ

湿度が低いとインフルエンザウイルスの生存率を高めるとともに、鼻・喉・気管などにある粘膜の繊毛の働きを弱め、ウイルスによる感染が起こりやすくなります。室内の湿度を調節したり、マスクを着用するなどの対策が必要になります。

カビ・ダニ

一般にカビ・ダニ等は、室温20~30℃、湿度70%前後が最もその生育に適した温湿度条件だといわれています。増殖を抑えるために、風通しをよくして、湿気がこもらないようにする必要があります。